

## 勝馬海水浴場に離岸流調査の結果について

福岡県勝馬海水浴場で、波打ち際5箇所に海面着色剤（シーマーカー）を投入し、流れの様子を福岡航空基地の航空機により離岸流調査を行いました。測点①から測点④は、並岸流又は停滞し、その後拡散しました。測点⑤は潮流の影響により沖へと流れました。今回調査した結果としては、**離岸流の確認はできませんでした**。なお、当調査は鹿児島大学水産学部西教授の協力のもと行いました。

### <調査結果>

- 6月21日に1回調査を行い、離岸流は確認されませんでした。  
なお、測点⑤については潮流の影響によって沖に流される結果となりました。（別表参照）

別表 海面着色剤投入後50分間の観測結果

測点	①	②	③	④	⑤
離岸流発生の有無	無	無	無	無	無
流向	離岸流の発生なし	離岸流の発生なし	離岸流の発生なし	離岸流の発生なし	潮流による流れ (離岸流の発生なし)
最大流速					
到達距離 (到達時間)					

### <調査方法>

- 海岸から海面着色剤を測点①から測点⑤までの5測点において散布して、海面着色剤が漂流及び拡散する状況を陸上及び航空機からビデオカメラにより撮影するとともに、目視により確認しました。



図1 海面着色剤投入直後（12時59分）

（※図1から図6まで当庁航空機による画像）

<調査経過 1 >

凡例 並岸流 : - - -> (橙色破線矢符)、潮流 : - - -> (紺色破線矢符)



図2 海面着色剤投入 5 分後 (13 時 04 分)



図3 海面着色剤投入 10 分後 (13 時 09 分)

<調査経過 2 >



図4 海面着色剤投入 20 分後 (13 時 19 分)



図5 海面着色剤投入 30 分後 (13 時 29 分)

### <調査経過3>

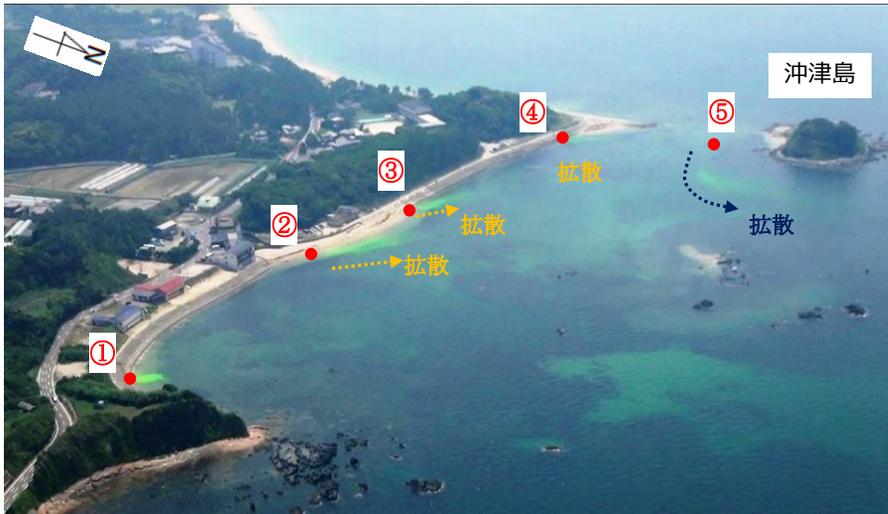


図6 海面着色剤投入40分後(13時39分)



図7 調査終了後 ドローンによる撮影 (鹿児島大学西教授 提供)

### <総評・まとめ>

本調査では、測点①から測点④は並岸流又は停滞し、拡散しました。測点⑤については志賀島と沖津島の流れによって沖に流され、その後拡散しました。測点⑤から北東方向への流れは、下げ潮による潮流が影響していると考えられます。逆に、上げ潮になると西方向の流れが発生すると推測され、沖津島より西側は水深が深くなる傾向のため流されると危険です。

本調査では、当日の気象・海象状況が穏やかであったため、離岸流を確認することはできませんでした。しかし、風が強く吹いたり、沖からの流れが強くなることで、どこの海水浴場でも離岸流が発生する可能性がありますので、マリレジャーを楽しむ際は十分に注意してください。

### <鹿児島大学西教授のコメント>

勝馬海水浴場では、ほぼ波が無かったため、離岸流を可視化することはできなかった。ただし、海底地形の可視化及び三次元化がある程度可能であったため、海底地形の把握が可能であった。その結果、勝馬海水浴場の海底地形は地形性の離岸流が発生しやすい海底地形であることが分かった。